

環境の変化により不穩を引き起こす認知症高齢者へのアプローチ

～ 回想法を取り入れて～

施設名：(亀の里) デイサービスあわせ
発表者：(介護) 千綿 民子 久保田 千枝子

【はじめに】

デイサービスあわせは、主に介護の必要な認知症高齢者の方が利用されています。私たちは、利用者が家族の方と一緒に自宅で長く暮らせるように日々対応法を検討しています。今回、アルツハイマー型認知症により環境の変化で不穩になり落ち着かなくなる方に対し回想法を取り入れ心理的效果について検討した内容を発表したいと思います。

【事例紹介】

K氏、女性、78歳 病名：アルツハイマー型認知症・骨粗しょう症・緑内障 要介護度3(障害自立度J2、痴呆自立度 b) 長谷川式スケール10点、NMスケール21点、N-ADL47点
ADLほぼ自立。性格は明るいが自宅に引きこもり状態。不安感が強い。

【経過】

平成19年10月 認知症の母がデイに継続して通えず、長男夫婦が仕事に行けずに困っていると娘より相談がある。体験利用を2回行い、デイサービスになじめるか確認し、平成19年10月より週3回利用となる。利用初日は落ち着き無く、不安を訴えた。活動プログラムに回想法(集団・個人)を取り入れる。定期的に利用できる為、1ヵ月後介護負担軽減の為、利用を週4回に増やす。平成20年5月長男嫁の仕事の都合により通所を毎日利用したいと希望あり、介護保険のみでは基準額を超えてしまうため、重度認知症デイケア(医療)も利用しながら在宅生活を送ることになった。

K氏は2箇所の通所を通うことに混乱し、不穩になりイライラ・易怒性が頻繁になった。利用時は回

想法を取り入れながらの誘導・活動参加となった。回想法の内容も検討を重ねた。さらに平成20年10月頃より道路拡張の為近所の住宅が立ち退き工事を行い、風景が様変わりしたことで妄想や落ち着かない状態が2週間ほど続いた。

【結果】

今回の検討から回想法の効果として通所の集団になじむという社会適応、意欲の増進や心理的安定が図れ落ち着いた日々を過ごせた。K氏に対し集団回想法と個人回想法を試みたが、集団回想法に比べ、個人回想法が特に効果があり、子供の頃の思い出話に多弁なり、明るい表情を見せるようになった。個別に援助を行う事と変化する認知症の状態に合わせて対応・内容の検討をする事が心理的に落ち着く結果となった。

【考察・まとめ】

環境変化により不穩を引き起こす方への対応法として今回回想法(集団・個人)を取り入れたが、かなりの効果を得ることが出来た。認知症高齢者への心理・社会的アプローチにおいて、回想法に限らず、療法やレクリエーション、アクチビティの諸方法を活用しその人にあった対応法が望まれると考える。今後利用者への対応についての更なる研究・研修が必要である。通所の役割として、認知症になっても自宅で家族と暮らす喜びを続けていけるよう今後もサポートしていきたい。

参考文献 認知症ケア学会誌 2007年